



北海道子ども読書応援団ニュース

ゆめ*よみ

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課

社会教育・読書推進グループ

TEL: 011-204-5994

FAX: 011-232-2236

子どもの読書活動の一層の充実を！

子どもの読書活動の充実を図ることを目的に、北海道教育委員会では、次の2つの資料を作成しました。4月に北海道教育庁生涯学習課のホームページに掲載しますので、ご活用ください。

【読書活動活性化フォーラム事例集】

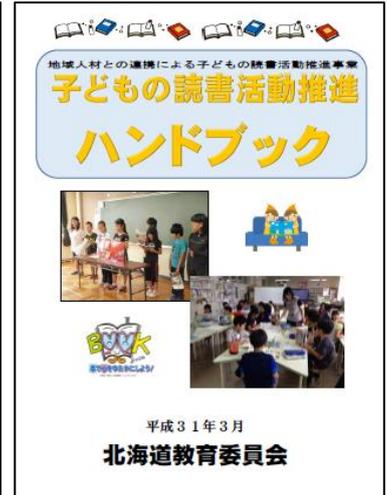
地域の様々な人材が一堂に会するフォーラムを実施しており、その協議の内容等について掲載しています。

【子どもの読書活動推進ハンドブック】

各教科等における学校図書館の活用、図書資料の活用、地域との連携による読書活動の在り方などについて具体的な事例を掲載しています。



【読書活動活性化フォーラム事例集】



【子どもの読書活動推進ハンドブック】

各地の子ども読書応援団の取組紹介

「読書の楽しさを届ける活動」 ふれあいの森情報館 マナヴェール友の会(黒松内町)

「マナヴェール友の会」は、平成16年にふれあいの森情報館マナヴェールが開館したことを機に発足しました。本会の母体となった、「くろまつないお話しの会」は平成7年に発足し、活動当初は各小学校で放課後に読み聞かせを行っていました。

現在は、27名の会員が登録しており、毎月第1木曜日にお話しの会を実施し、幼児と小学生を対象とした読み聞かせを行うとともに、読書まつり、マナヴェールフェスティバル、マナヴェールクリスマスなどのイベントには教育委員会とともに運営に関わり、地域の読書活動推進の一翼を担っています。

今年度、マナヴェールフェスティバル、マナヴェールクリスマスでは、地域の小・中学生がボランティアとして事業の運営に関わるようにしたところ、窓口業務の手伝いの他、読み聞かせや来場した親子連れに楽しんでもらうためのゲームと工作の企画・運営を行いました。

友の会代表の土肥薫氏は、今後に向けて「本を読むことの楽しさを幼児や小学生だけではなく、町民の皆さんにお届けできるような活動をこれからも続けていきたい。そのためにも会員一人ひとりのスキルアップを図るとともに、一緒に活動できる仲間を増やしていきたい。」と語っています。



【親子読み聞かせの様子】

「子どもたちの豊かな心を育むために」 読み聞かせボランティア 「土曜おはなし会」(根室市)

昭和54年、市民による「おはなしボランティア」として始まった「土曜おはなし会」。以来40年、心のバトンが受け継がれてきていることが、毎回の活動からも垣間見えます。

現在、ボランティアとして9名が登録。毎週土曜日の14:30~15:00、根室市図書館で活動しています。私たちボランティアは、毎週やってくるたくさんの子どもの笑顔を楽しみに、選書や練習に励んでいます。これからも、根室市の子どもたちの豊かな心を育むために、活動を続けていきたいと思っています。

＜ある日の「土曜おはなし会」の様子＞

いつものように親子連れの多い根室市図書館の館内。「土曜おはなし会」を楽しみに来館している親子連れも多く、時間が近づくにつれ、読み聞かせが行われる部屋の近くには、幼児の姿が増えてきました。

この日は、絵本3冊、紙芝居2冊の読み聞かせを行いました。

- ① 絵本「ちことゆうのおだんごやさん」
- ② 紙芝居「ポンコちゃんとおぼけめいじん」
- ③ 絵本「ケチャップれっしゃ」
- ④ 紙芝居「ちがうでしょ」
- ⑤ 絵本「あいうえおりょうりめしあがれ」

子どもたちは、夢中になってお話を聴きながら、おいしそうな絵が出てくると一緒に「パクパク」。あっという間の30分でした。



【読み聞かせを楽しむ子どもたち】

「子どもたちに喜んでもらうために作る紙芝居」 子ども達に自作の紙芝居を見てもらう会(北見市)

北見市の「子ども達に自作の紙芝居を見てもらう会」は、平成元年に結成され、現在は12名の会員で、紙芝居フェスティバルや街頭紙芝居を実施しているほか、病院や学校などで自作の紙芝居を上演しており、平成26年には、子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰、そして、今年度は、優良読書グループ北海道表彰本賞を受賞しました。

また、結成30周年を迎えた今年は、「結成30周年記念紙芝居フェスティバル」を北見市立中央図書館で開催しました。

当日は、昔の遊びや文化を伝えるオリジナル作「わたしたちが小さかったころ」や子ども向けの「こねこのしろちゃん」のほか、紙芝居を使ったクイズなどを披露し、子どもから大人まで約30名が、和気あいあいと紙芝居を楽しみました。

紙芝居は、これまでにオリジナル作を含めた約60作品を制作し、毎年8月には戦争に関する物語を上演する街頭紙芝居も続けています。

小林会長は、「夢のような、あっという間の30年でした。紆余曲折がありながらも、皆さんの協力をいただきここまでできました。」と振り返り、「苦労して作った紙芝居を、身を乗り出して見て、『また来てね』と言ってくれる。この喜びは何ものにも代え難い。」と活動の思いをかみしめています。



【第28回ぼんぼんまつり がいとう紙芝居】

「子どもたちに本の魅力を伝え続ける」 ひだまりの会（壮瞥町）

読み聞かせボランティア「ひだまりの会」は、壮瞥町で平成11年に設立され、現在の会員数は9名という少人数ながら、地域交流センター図書室の絵本や紙芝居を活用して、町内小学校や子育て支援センター、特別養護老人ホームにおける定期的な読み聞かせを中心に熱心な取組を続けています。

結成当時、メンバーの大半は読み聞かせの経験がなかったため、月に数回集まったの発声や早口言葉の練習、町外の先進地域における研修を積極的に行いました。現在では、これらの回数は少し減っていますが、地道に研修を重ね、更なるスキルアップを目指して活動しています。

また、学校における読み聞かせのみならず、毎年秋に開催される「図書フェスティバル」においては、町教委と連携して、パネルシアターや人形劇など、常に趣向を凝らした内容となるよう企画立案から運営に至るまで主体的に関わり、町内の子どもたちの読書活動の充実に向けて大きく貢献しています。

同会の谷岡代表は「子どもが身を乗り出して聞いてくれたり、『また来てほしい』と言ってくれたりすることが励みになる。」とやりがいを感じています。会の発足20周年を迎え、今後は、若い方々に入会してもらい、活動を継承していくことにも力を注ぎたいと考えています。



【図書フェスティバルでの読み聞かせ】

「読み聞かせの魅力をどこにでも！誰にでも！」 うりぼうのぽっけMIX（七飯町）

「うりぼうのぽっけMIX」は、平成19年の亥年に結成したことにちなんで名付けられ、本年（亥年）、2回目（13年目）となる節目を迎えました。地元の七飯町をはじめ、函館市内の幼稚園や保育所、八雲町などでも活動し、現在は、幼児と保護者を対象とした絵本の読み聞かせを函館市中央図書館で月2回、函館市千歳図書室で月1回ずつ開催しています。

特に、千歳図書室での活動は、高齢化により活動休止を余儀なくされた前団体の後を継ぎました。拠点から遠く、地域の規模が小さいですが、来た人が喜んでくれることを第一に取り組んできた結果、今では、千歳図書室及び地域活動に欠かせない存在として活躍しています。

代表の本庄雅子さんは、「私たちはフットワークの軽さを目指したい。」と話しています。実際の読み聞かせも軽快で、親子問わず参加者とのコミュニケーションを楽しみながら、「絵本」「手遊び歌」「エプロンシアター」「紙芝居」などをテンポよく展開し、みんなの笑顔を引き出しながら、絵本に触れる楽しさを味わう時間をつくっています。

また、昨年から函館市内のデイサービスに集う高齢者に向けて絵本の読み聞かせを実施するなど、新たな取組にも挑戦し、好評を得ています。「これからもいろいろなニーズに応じて、どこにでも、誰にでも、私たちの活動を提供し、読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、笑顔を広げていきたい。」と今後の抱負を話してくれました。



【千歳図書室での絵本読み聞かせ】

「国語力の向上に寄与する読み聞かせの取組」 おはなしの会「もこもこ」（留萌市）

毎年実施される全国学力・学習状況調査の小学第6学年の国語Bの平均正答率が、この数年、全道で常に上位に位置しています。このことは、学校での授業改善の成果であることは言うまでもありませんが、管内の図書館（室）職員や読み聞かせボランティアによる読書活動の充実に向けた取組も一因であるとの声が聞かれます。

今回は「おはなしの会『もこもこ』」の活動を始めとする地域の取組を紹介します。

留萌市では、2014年に市内の書店による読み聞かせ会を開始し、15年からは、市立図書館職員や「おはなしの会『もこもこ』」をはじめとする読み聞かせボランティアによる「出張おはなし会」を、市内6か所の児童センターで行っています。図書館では、子どもが読んだ本を自分で記録する「どくしょてちょう」を配布するなど、地域全体で子どもの読書活動の充実を図っています。

また、「おはなしの会『もこもこ』」は、未就学児とその保護者を対象に毎月2回の読み聞かせ会「おはなし玉手箱」を図書館で開催し、幼少期から読書に親しむ素地を育むとともに、保護者が、子どもの読書の大切さに気付く取組を行っています。

このほか、幼児から大人まで楽しめる年1回の「おはなし会」や、月1回の市内高齢者施設3か所での読み聞かせを開催するなど、会独自に市内で読書活動を推進しています。



【出張おはなし会の様子】

「子どもの反応がパワーの源」 読みきかせサークル「もこもこ」（上ノ国町）

上ノ国町の読みきかせサークル「もこもこ」は、読み聞かせに興味があつて活動していた方が集まり、平成23年に発足しました。

現在は、町民図書室や町内の小学校、ブックスタート、老人グループホームなどで読み聞かせ会を行っています。毎年5月と12月には、町民図書室主催のビッグイベント「絵本のひろば」が行われており、この日に合わせ、「もこもこ」の皆さんは、絵本の読み聞かせの他に、上ノ国に伝わる民話の紙芝居の作成や、ハンドベルの練習などを行い、当日、たくさんの人の前で披露しています。

参加者が喜ぶ読み聞かせ会にするため、サークルのメンバーは、活発に意見を出し合い、楽しみながら準備を進めるとともに、毎月1回のペースで勉強会を開き、絵本や読み聞かせの手法等について学んでいます。

「もこもこ」で活動している7人の皆さんの元気の源は、読み聞かせ会終了後の子どもの表情や、感想を話してくれる子どもの素直な姿です。多くの子どもたちや町民の方が本を楽しめる環境が町内に広がることを願いながら、今日もパワフルに活動中です。



【人形劇形式大型絵本による読み聞かせ】